

東久留米市立西中学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	課題に対して意欲的に取り組むことができる。一方で、自ら工夫してより深く考えるという点は未だ十分ではない。	まずは課題への取り組み方について理解させよう。自分で、自分の考えたことを表現する手段をもたせる。また、意見を交流させる場を設けることで自分の考えと比較検討できる場面を意図的につくる。	◎取り組み方に戸惑っている生徒がいれば、例を見せる等の方法で表現する手段をもたせる。自分の意見が表現できない生徒を3割以下にする。 ○授業プリントに自由記述欄を設け、そこに興味をもった他者の意見を記入させる。5割以上の生徒が参考にしたい他者の意見を記入できるようにする。 ○思考・判断したことを表現できない生徒を3割以下にする。
社会	授業に意欲的に取り組む生徒が多いものの、思考判断したことを表現することを苦手としている生徒が一定数いる。 知識・技能の定着が不十分な生徒がいる。	単元ごとに到達目標に対する解答を書かせ、思考判断した内容を表現する機会を増やし、不十分な点を指導する。 形成的評価によって生徒自身に気付かせ、反復学習を行うよう促す。	○反復学習を促すために問題集や小テストから類題を考査に出題し、知識技能のB評価以上の達成率70%を目指す。
数学	日常生活の物事を数学的にとらえることができない生徒が多い。 計算力がしっかり身に付いていない生徒がいる。	日常生活の物事を数学的にとらえ解決できるようにする。 既習の計算を振り返る時間を設け、繰り返し学習させる。	●単元ごとの8割以上の生徒が日常生活の物事を数学的にとらえ解決できるように授業をしてい ○計算力テストを定期的に行い、90%以上の生徒が80%以上正答するようにする。
理科	かみ砕いて整理された学習課題学習をこなそうとする意欲はあるが、教科書の記述から内容を理解することが困難な生徒も多い。 各単元の基礎的な概念形成に指導の重点を置いて指導したい。	単元の重要概念を書いて表現できるワークシートの形成的評価を行う。 各単元の重要概念を精選して小テストを行い、重要概念の習得につなげる。	●考査での得点力において3～5ポイントの向上を目指す。 ○知識技能で0.3ポイント思考判断表現で1.3ポイントの得点力向上が見られた。 ○回復指導を行い、各単元の重要概念の習得を後押しする。 ○回復指導を行うことで重要概念の習得を勧めることができた。
音楽	意欲的に授業に取り組む課題に向き合う力はあるが、音楽を形づくっている要素とその働きを自分の考えと結び付けてまとめる力に個人差がある。	例を簡潔に示したり、ICTを活用しどのように表したらいいの視覚的にとらえやすくする。ワークシートについても、音楽的な見方・考え方を働かせやすいよう記述欄を工夫する。	○形成的評価の場面で音楽的な言葉を使って自分の考えをまとめられる生徒を6割以上にする。また、総括的評価でB以上の生徒が7割を超えるようにする。
美術	自己調整できるようになってきた生徒が一年時より増えた。一方で指示をよく聴いていなかったり自己の課題を明確にしないまま進めている生徒もいる。	振り返りシートの記述から具体的な課題に気が付いているかを読み取る。毎授業のポイントを繰り返し授業内で指導する。生徒同士で評価し合う場面を増やす。	○つまずきが見られる生徒から課題を話させるなど、個別指導を重点的に行う。
保健体育	技能習得に向けた、具体的矯正のポイントの理解は深まってきている。相手に伝えることや文章で説明する力をさらに伸ばしていきたい。	正しい動きを理解する視覚的な情報を用意する。また、ペア学習やグループ学習を取り入れる事によって相互評価の場面を設定する。その際、ワークシートに書いている運動の課題、目標、練習の工夫、成果等を伝えられるようにする。	◎運動の目的や課題解決等に向けて書けているか評価し、個別に指導(コメント記入)を行う。総括的評価でB評価以上の生徒が7割を超えられるようにする。

技術	知っている知識を活用して、課題を解決する力をつけていきたい。	振り返りシートの内容や学習の様子を確認し、ICT機器を利用し、個別指導の充実を図る。 知識の定着を図り、定期的に確認テストを行う。	○課題解決学習終了後の振り返りシートの記述内容で確認。 ●確認テストで8割以上を目指す。
家庭	誤字が多い。話し合い活動やプリントの記述で自分の考えや意見をしっかり表すことができる生徒が昨年度に比べて増えてきた。	プリント等の記述の誤字は随時修正し意識させる。お互いに高めあおうとする意欲を大切に、発表や紹介する機会・場面を増やす。	◎ワークシートの記述内容
	基礎縫い・補修作業の定着により実践に生かすことのできる力を付ける。	消費生活の環境の勉強（エコ）を生かし、製作の中で技能の習得を図る。	○エコバッグの製作で基礎縫い・ボタン付け、ミシン技能の習得を図る。（練習・振り返り・作品）
外国語	意欲的に課題に取り組む生徒が多い。既習の文法事項の定着には時間がかかるが、確実に成長している様子が見られる。	どの単元でも、既習の英文法を取り入れて問題演習を行うなどスパイラル学習で定着を図る。	○期末考査の「書くこと」の知識・技能でBに到達する生徒を8割以上にする。
	「話すこと」「書くこと」の正確さを重視した活動を少しずつ増やしていく。	生徒との対話では生徒の発話の言い換えを積極的に取り入れ、文法のミスに自然に気付けるように導く。	○「話すこと」のパフォーマンステストでBに到達する生徒を8割以上にする。
特別の 道徳 教	道徳的価値に対して、授業を通して深めようとしている生徒も多く、実践意欲と態度につながることができている。反面、他者との対話をもとに多様な考え方がありと広げられない生徒も一定数いる。	道徳的価値に対する深い理解の基、授業を行う。また、他者の意見を取り入れ、道徳的価値に対する多様な考え方を広げることもできるよう、対話の時間を確保できるようにする。	◎ファイルに保存したワークシートによる振り返りを行い、他者の意見に触れることによって道徳的価値に対して新たな考えを獲得できたか個人内評価を行う。
学習の 総合的 時間	職業・勤労の学習の中で知識として様々な職業を関連付けることはできるが、自分自身の興味・関心のある職業を問われると解答できない生徒も多い。	職業を関連付けていく中で、生徒自身がどのように考えて職業同士を関連付けているのかを具体化させる。	●ワークシートを活用して生徒自身の考えた過程を確認し、興味・関心のある職業を明確に挙げることでできる生徒を半数以上にする。
	調べ学習において、指示された調べ方で取り組むことはできるが、自主的に探したり、工夫するところまでは至っていない。	学習の予定や調べ方を意識させるため、計画や調べ方をワークシートや掲示物で示し、説明を丁寧に行う。	◎学習の最後に学んだことをまとめさせ、調べ学習の方法や発表の良かった点、改善すべき点を確認する。